

今季3度目の表彰台獲得！シリーズランキングも3位で終える

RACE	2015 AUTOBACS SUPER GT Round8 『MOTEGI GT 250kmRACE』
DATE	予選：2015年11月14日 決勝：2015年11月15日
CIRCUIT	ツインリンクもてぎ（栃木）
WEATHER	予選：雨/ウエット 決勝：曇り/ウエット→ドライ
RESULT	予選：3位 決勝：3位

ついに迎えた今シーズンの最終決戦。SUPER GT第8戦は、Hondaのホームサーキットとして知られる栃木・ツインリンクを舞台に250kmのレースを展開する。第6戦SUGOで念願の優勝を果たすも、続く第7戦オートポリスにおいては思うような展開に持ち込むことができず、厳しい戦いを強いられたTEAM KUNIMITSU。だが、真っ向勝負となる今大会で、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは高いパフォーマンスを披露。チームとしての総合力を遺憾なく発揮することとなり、予選3番手から挑んだ決勝では、トップ争いに絡む力走を見せて3位チェッカー。これにより、チームはドライバーランキング3位の好成績を手中に収めることとなった。



最終戦のもてぎを迎えるにあたり、チームでは9月下旬の公式テストで手応えを得ていたデータをもとにクルマ作りを進めた。“ストップ&ゴー”というもてぎならではのコースにおいて、ライバルより秀でた攻略法を確立することが必須となる。なにしろ、最終戦はこれまで搭載されてきたハンディウエイトがなくなり、ライバルとは真っ向勝負に挑むことになるわけで、まずは予選で少しでも好成績を狙いたいところだ。一方、戦いの舞台であるサーキットは朝から雨模様。公式練習のセッション開始直後は微雨だったが、雨が止めば代わりに霧が出るという落ち着いたコンディションに各チームは翻弄される。そんな中でもチームは都度状況に合わせたクルマを用意しようと奮闘。結果、GT500の専有走行で山本尚貴選手が1分47秒293のチームベストをマーク、4番手で走行を終えることとなった。

◎ 予選：

朝の走行終了後も天候は変わらず、曇天の空から小雨が降り続ける。そんな中、GT500クラスのQ1が午後2時20分にスタート、気温13度、路面温度15度と寒さを感じない。まず最初のアタック合戦に挑んだのは、山本選手。しかし、アタックを始めた矢先、一部の場所で雨脚が強まったという情報がアナウンスされる。レインタイヤでのアタックは雨量次第で一瞬にして困難を極めるため、一気に緊迫した空気が流れ始めた。コース上の山本選手においてはタフなコンディションに置かれることとなったが、冷静に状況を踏まえてアタックを続行。刻んだタイム1分48秒655は7番手となり、無事にQ1を突破。Q2のアタックを控える伊沢拓也選手にバトンを渡すことに成功した。



迎えたQ2は午後3時5分にスタート。気温、路面温度ともQ1とほぼ変わらないが大きく異なったのが雨量で、本降りの中、さらにアタック条件が厳しくなった。濡れたコース上で少しでも力強く走れるようなクルマを準備しようと、ピット内もインターバルを使って準備に余念がない様子。その気持ちに応えたい伊沢選手はセッション残り5分の段階でベストタイムをマークし、トップに躍り出る。だがポジション争いはさらに激化。降り続く雨の中、伊沢選手はなおもアタックを重ね、最終的に1分49秒981までタイムアップ。結果、3番手のポジションをつかんだ。

緊迫したコンディションでのタイムアタックをやり遂げた山本、伊沢両選手。Q1担当だった山本選手は「クルマに関してはバランスも悪くなかったし、雨量とコンディションに合わせてタイヤの選定さえミスをしなれば大丈夫だと思っていました」と不安要素がない中でアタックに挑んだとし、「チームとしての選択はじめ、ドライバー自身の選択やドライビングなど、すべて現状ベストな組み立てが出来たかなと思う」とやや安堵感を滲ませた。そして翌日の決勝に向けては、「天気予報からすると、スタートでいきなりスリックタイヤを履くシチュエーションになる可能性もあるので、やってみないとわからない部分もあるが、しっかりと取りこぼさないようにうまくやれば結果はついてくると思う。サバイバルにはなるでしょうが、しっかりと生き残ることをまずは考えたい」と決意を新たに。一方で伊沢選手は「ポールポジションが獲れず、ごめんなさいという感じ」とアタックでの悔しさを口に。しかし、「雨量に合わせてどのタイヤを履くかすごく迷ったが、うまく選択できて想像以上にいい感じで走れた」とアタック自体は満足できるものだったと振り返った。また、「今回の僕は勝つことだけを考えている。このポジションからであれば、思いっきりレースができると思う。失うものもないので攻めの走りを見せます」と力強く宣言した。

◎決勝：

天気予報では雨が上がると言われた決勝日の朝。だが僅かではあるが雨が降る中でフリー走行が始まる。気温14度、路面温度15度と前日の予選とほぼ同じコンディション。しかしセッション終盤ともなると、雨が格段減り、先にコースインした山本選手から引き続いてドライブしていた伊沢選手がトップタイムをマークし、走行を終えている。「クルマの状態もどんどん良くなり、いいレースができるのではないかなという手応えがある」と伊沢選手。天候、路面状況次第という不確定要素が多い中ではあるが、的確な戦略で攻めの戦いができるという自信を裏付けることとなった。



午後の決勝に合わせるかのように雨は上がり、薄曇りの空が一面に広がる。レース中の安全面を配慮し、ウォームアップ走行が通常の8分間から18分へと延長され、各チームともコンディションの把握に余念がない中、ついに午後1時40分、パトカーの先導によるパレードラップが始まった。このあと、セーフティカーが代わって先導、ローリングスタートによって250km、53周にわたる最終決戦が幕を開けた。

No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのスタートドライバーを務めたのは、山本選手。ポジションキープでオープニングラップを終え、逆転のチャンスを窺いながら周回を重ねていった。すでに路面から水煙は上がらなくなり、ドライバーには乾き始めた路面の中、装着しているレインタイヤをいかにコントロールするかという役割が与えられる。そのコース上は、山本選手が前後の車両と僅差で攻防戦を続ける緊迫した状態ではあったが、チームでは22周を終えてルーティンワークのピットインを行なう決断を下す。



折しもトップ走行中の37号車と同時ピットインとなり、その37号車の背後でコースに復帰したNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTには伊沢選手が乗り込んでいる。この後、他車も続々とピットインを行なったが、中でも1号車がライバルより明らかに短い作業でコースに復帰。伊沢選手は実質3番手で激しいポジション争いをスタートさせた。

レースは26周目、2コーナーでGT500とGT300の車両が接触し、破損したパーツが散乱。それを回収するためにセーフティカーが5周にわたって導入された。その後のリスタートでNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは3番

手をキープ。背後にはチャンピオン争いをする12号車が迫っていた。一方で伊沢選手も目前の37号車を攻略し、一度は2番手へと浮上。だが激しい混戦が続き、終盤は3番手で周回を重ねていく。今シーズン最終戦のバトルは、最後の最後、チェッカーを受けるまでトップ3台が1秒を切る僅差のポジション争いを展開する白熱戦でその場を大いに盛り上げた。よってNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは3位でチェッカーを受け、今年の戦いを終了することとなった。

今シーズン3度目の表彰台に上がったNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。序盤は思わぬトラブルが重なり、厳しい戦いを強いられることもあったが、第6戦SUGOでの優勝を含め、つねにチームとして諦めず向上心を持ち続けてチャレンジしたことが、最終戦での3位、そしてドライバーランキング3位の好成績を導いたといえる。

◎高橋国光総監督

とってもいいレースでした。チームではクルマ作りも正しい方向で進めることができ、本当にレベルの高い戦いを繰り広げてくれました。さらにはドライバーがその思いにキチンと応えていたと思います。そこにはファンの皆さまからの熱い思い、応援から頂いた力も含まれるでしょう。うれしい結果を残してくれました。天候の変化はじめ、セーフティカーなど様々な不確定要素が多かったですが、一方でレース内容は誰がみても凄いと驚くようなすばらしい中身だったと思います。モータースポーツが持つ醍醐味、魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。そういう気がします。終盤に入り、タイトル争いが絡む車両とのバトルにもなり、見どころある攻防戦になりました。伊沢選手がしっかり凌いでくれましたが、そこに至るまでの山本選手の活躍も素晴らしいものだったと思います。ふたりのコンビネーションがさらに強くなりましたね。

今季は開幕戦で表彰台上がったものの、その後低迷が続き悔しい思いが先行しました。しかし、第6戦SUGOで優勝、そして最終戦で3位に入り、再び表彰台に上がることができたのですが、こういう結果が伴ってくると、チームとしてもまた監督としても欲が出てきますね（笑）。もう来年は絶対チャンピオン獲得！という思いが強くなっています。それだけの働きができるドライバー、チームスタッフが揃っていると思いますので、我々をつねに応援してくださっているスポンサーはじめ、ファンの皆さまに心から感謝するとともに、これからご協力いただければと思います。ありがとうございました。



◎山本尚貴選手

天候とコンディションがすごく難しい中、最後までしぶとく戦うことができました。今日は前半で64号車を抜ければ良かったんですが、難しかった。まずはコース上に残って今のポジションをしっかりとキープして、伊沢（拓也）選手にバトンを渡すことが大事だと思いました。代わった伊沢選手は、レースウィーク中で初となるスリックタイヤを着け、ラインが1本しかない中で走るというすごく難しい中でちゃんとレースをしてくれました。ただ、本人は優勝を目指していた、とすごく悔しそうで…。その気持ちはすごくわかります。今日は緊迫した戦いの中でしっかりと結果を残せるかどうかすごく重要だったと思います。今シーズンはタイトルが獲れず、また最終戦も優勝できませんでしたが、弾みをつけて来シーズンを迎えることはできると思います。

今シーズンは、開幕戦からタイトル獲得に向けて幸先よいスタートが切れたと思ったのですが、その後の序盤戦はトラブルで2戦落とすことになりました。でもあの2戦があったからこそSUGOで優勝できたと思うし、レースってこういうものだと思います。何がやっぱり一番良かったかという、ポイントを落とした時にも、チームのみんなが投げ出さず勝とうという気持ちをもって堪えてきたのがこの結果に繋がったと思います。もちろんドライバーとしても伊沢選手とともにがんばったところもありますが、何が一番救われたかっていうとツライなかでも腐らずにがんばってくれたチームのみんなのおかげだと思います。チームのみんなと一緒に勝ち取った最終戦の3位とランキング3位だと思います。

◎伊沢拓也選手

難しいコンディションでの戦いでしたが、僕の中では、自分のクルマが他よりも速かろうが遅かろうがあんな位置で戦っていたからにはホントに勝ちたかったです。でもそれができなかったから悔しいですね。ちょっとミスもあったし、悔しい。今回、少なからずともチャンピオンの可能性もあった僕らにとって、まず勝つことでしか（タイトル獲得）可能性がなかったわけなので、勝たなきゃいけないレースだったんです。相手の順位がどうであれ、今日の僕らの順位ではチャンピオンが獲れなかったことは事実だし。（流れやコンディションが）良かったとはいえ、ポールも獲れず、レースでも勝てなかったわけですから、これが今週の僕らの力だったんだなと思います。

今シーズンは、僕も山本選手もコンビとして復活して1年目。改めて、新規、一からスタートという気持ちで始めました。シーズン前半は開幕こそ順位が良かったものの、正直手応えとしてはそんなに良いものではありませんでした。ただ後半に向けて尻上がり調子が良くなり、最終的にはシリーズ3位という結果を手にすることができました。もちろんチャンピオンを獲れなかったことは残念なのですが、ほんとに良い結果だと受け止めています。他のHonda勢も苦戦していたことを考えると僕らが手にした3位というものはとても大きい。苦しい中でもみんながミスなく戦ってきた結果だと思います。



今回のレースで2015年のシリーズは終了いたしました。

皆様のご支援・ご声援ありがとうございました。